

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくばみらい市立十和小学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 7名 2年10名 3年11名 4年10名 5年 6名 6年14名 計58名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	【東京オリンピック・パラリンピック陸上等体験会（体育）】 現役の競技者の話を聞くだけでなく、子供たちが実際に体を動かして体験することを行い、速く走れたときの喜びや夢に向かって頑張っていくことの大切さ、生涯にわたって楽しくスポーツに関わっていくことについて考える機会とする。また、競技者としてたくさんの人々と関わっていく中での礼儀や心構えなどについても感じられるようにする。
5 取組内容	1. 実施日 令和3年11月11日（木） 2. 時間 9：30～10：15 1・2年生 17名 10：35～11：20 3・4年生 21名 11：25～12：10 5・6年生 20名 3. 講師 筑波大学体育系准教授 木越清信先生 4. 対象 第1学年～第6学年児童（58名） 5. 事前指導 事前アンケートを実施した。 6. 内容 筑波大学体育系准教授の木越清信先生をお呼びして、「東京オリンピック・パラリンピック陸上等体験会（体育）」を実施した。 『ウサギとカメが実際に走ったら』という内容で、持久走をテーマに低・中・高ブロックごとに体験活動を行った。 (1) あらかじめ持久走のタイム測定を行い、タイム順にチーム分けを行った。速い子から順に、「1、3、5、7、9番目のチーム」と「2、4、6、8、10番目のチーム」の2チームにチーム分けをした。 (2) それぞれがウサギとカメになり、同じ時間走ったら、どちらがたくさん走れるかを体験した。自分が休んでいるときは、相手チームのペアを組んでいる児童のグラウンドを往復する回数を測定した。

・低学年ブロック



・中学年ブロック



・高学年ブロック



7. 業間ランニングを11月9日～24日まで、グラウンド100周を目標に実施した。



8. 11月25日（木）に公開体育（持久走）を、1・2年生1000m、3・4年生1600m、5・6年生2200mで実施した。各ブロックで男女1～3位を表彰した。



9. 事後指導 事後アンケートを実施した。

6 主な成果

本校の教育目標「自ら学ぶ態度を養い、人間性豊かで、心身ともに健やかな児童の育成をめざす」を達成するために、本事業を年間計画に位置付けて取り組んだ。筑波大学体育系准教授の木越先生をお呼びして、事業の2週間後に行われる公開体育（持久走）に向けて、どのようなペース配分で走ると結果として速く走ることができるのかを、子供たちが実際に体を動かして体験することができた。ウサギよりもカメの方が長い距離を走るときには向いているということ、どの児童も実感していた。苦しくても最後まで走り抜くことの大切さを学び、公開体育（持久走）では全員が最後まで走り抜くことができた。生涯にわたって楽しくスポーツに関わっていくことについて考える機会となり、「オリンピック精神」が可能性を伸ばし、自己教育力につながることを実感できた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

公開体育（持久走）に向けての意欲を高めるとともに、長い距離を走るときにはどのような速さで走るのがよいのかを実感できる活動になるよう工夫した。「東京オリンピック・パラリンピック陸上等体験会（体育）」、「業間ランニング」、「公開体育（持久走）」の3つを関連付けて、自分の体力に合った速さで長い距離を走ることができるようにした。また、この活動を通して、寒さに負けない丈夫で健康な体を育成できるようにした。

8 主な課題等

講師の先生との打ち合わせや事業の日程（時間）調整に時間がかかった。事前の打ち合わせをスムーズに行えるよう、コーディネーター等がいてくれるとありがたいと感じた。

9 来年度以降の実施予定

- ・今年度は筑波大学の体育系の先生にお願いすることができた。来年度以降については、パラリンピアンとの協力を得ることができるようであれば、継続して実施したいと考えている。
- ・高校生や大学生のアスリートとの交流を図っていききたい。地元の高校生や全国レベルで活躍する大学生と交流し、生涯にわたって楽しくスポーツに関わっていくことについて考えさせたい。